

薬薬連携 ～地域医療連携における薬剤師の関わり～



薬剤部長 坂下 可奈子



「薬薬連携」とは何か？これは、病院「薬」剤師と開局「薬」剤師（調剤薬局）が、連携を図って、薬物療法の知識や調剤技術を研鑽し、患者様の薬物治療に適切に関わっていくことです。私たち薬剤師が当然のように使用している「薬薬連携」という言葉は、薬剤師以外の方には耳慣れないかもしれません。簡単にいうと病診連携の、薬剤師版だと思っていただければよいと思います。

平成19年に医療法が改正され、これまで薬剤師個人の位置づけだった調剤薬局は、「医療提供施設」として明文化されました。これからは、「病診連携」（現在は病院の医師と診療所の医師の連携という意味で使用されている）という言葉には、医師だけではなく、薬剤師も含まれることになるでしょう。しかし、現実には、患者様のみならず、医療関係者にもこのことが十分には理解されていないようです。これは私たち薬剤師が、自分たちの仕事を他の人々に理解していただくという努力が不足していたことも原因の一つかもしれません。このような問題を解決すべく、4年制だった薬学教育が6年制となるなど、薬剤師を取り巻く状況は、大きな変革期を迎えています。

現在、前橋市薬剤師会が中心となって定期的に心臓血管センターと地域調剤薬局の合同カンファレンスを行っています。当センター医師の講演を聴講後、処方内容について地域調剤薬局が日頃から疑問に思っていることなどをディスカッションしています。病院薬剤師にとっては、調剤薬局の薬剤師が必要としている情報が何かを知るよい機会となっています。患者様にとって望ましいことは、入院・外来に関わらず、病院薬剤師と地域の調剤薬局の間において、患者様の服薬指導や薬学的管理の情報が円滑に引き継がれることです。その際に大きな役割を果たすのが「お薬手帳」です。ジェネリック医薬品を使用する機会が増加している今、重複投与を防止するためにもぜひ「お薬手帳」を活用していただきたいと思います。また、私たち薬剤師は薬の専門家として、他施設の医療者からの問い合わせにも対応していくなど、地域医療連携を支えるスタッフとしての「薬剤師」をアピールする必要があると感じています。頼れる薬剤師を目指して努力していきますので今後もどうぞ、よろしくお願いいたします。



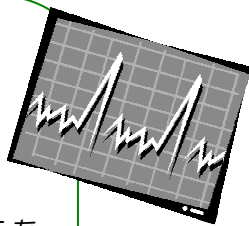
（この文章は上記の長い段落の一部を再掲しています）

～9月からの新入職医師ご紹介～



坂本 有（さかもと たもつ）
循環器内科 シニアレジデント
専門：不整脈
卒業年：平成13年

気軽に相談していただけるような
医師を目指しています。
どうぞ よろしくお願ひ致します。



「患者本位」の「病診連携」



岡本医院（伊勢崎市）

院長 岡本 栄一 先生

心臓血管センターの皆様には日頃から大変お世話になっております。「病診連携」について、「患者さんの不安・煩わしさ」を中心に私の意見を書かせて頂きます。

「病診連携」は本来、心臓血管センターの理念にあるように「患者本位」であるべきですが、我々はとかく医学・医療的な側面から「病診連携」を考えがちであり、連携に伴う患者さんの心的負担を軽視していないでしょうか。

患者さんが別の施設へ移る時、病気そのものに対するのとは異なる、移動に伴う不安や煩わしさが生じます。診療所から病院への紹介の場合、大きな病院で診てもらえるという安心感があり、病院から診療所への逆紹介の場合、自宅の近くで便利、待ち時間も少なく良い、という患者さんの希望があります。しかし一方では、

- ①<知らない施設で知らない医師と一から人間関係を築く事の不安や煩わしさ>
- ②<自分の体（病歴）の事を改めて説明する煩わしさ、紹介元からどこまで正確に伝わっているのだろうかという不安>

そして病院から診療所への逆紹介の場合には、

- ③<これまで病院で受けていたような診療を継続してもらえるのかという不安>が加わります。以前心臓血管センターに勤務していた事もあり、このような「連携の際に生じる不安・煩わしさ」を双方の立場で聞いてきました。

「病診連携」を「患者本位」のものとするには、医学・医療的な側面に力を注ぐだけでなく、このような「不安・煩わしさ」を軽減・解消する必要があります。

①については、病診間で緊密なコミュニケーションを図り、いわゆる「顔の見える病診連携」を行うことが重要であり、その点で、病院スタッフと交流の機会を持てる登録医大会は有意義な場です。また地域医療連携室のスタッフが個々の登録医とのコミュニケーションを積極的に図った上で患者さんに情報提供している点は、医師同士だけでは不十分な「顔の見える病診連携」を支えるものとして、非常に優れていると感じています。

②については、患者情報を出来るだけ共有し、紹介・逆紹介の際におこり得る患者情報のロスを最小限にする事が必要であり、現時点で出来るのは、お互いきちんとした紹介状（返事）を書く事だと思います。患者さんの情報をもっと正確に教えてほしいという思いは、病院、診療所、双方を感じる点のひとつではないでしょうか。私自身、若い頃、書類書きは診療の二の次だった反省をふまえ、現在は紹介先に必要十分な情報が伝わるよう心がけています。将来的には画像も含めた患者情報をネット経由などで完全に共有化できる事を期待しています。また病状などにより患者さんを紹介元に返せない場合には、その旨を患者さんと紹介元にきちんと説明してほしいと思います。

③については、病院から診療所へ移る患者さんの期待に応えられるよう、医師としての恒常的なレベルアップを図りたいと思います。病院主催の症例検討会はそのための有効な場だと考えています。病院の先生方にとって症例検討会の準備は手間ですが、非常に意義のある会なので今後も期待しています。

最後になりますが、「病診連携」に携わる医療者同士として今後もよろしくお願い申し上げます。

☆☆☆たいへん貴重なご意見やご指導をいただき、ありがとうございます。今後、開催予定の登録医大会や症例検討会の準備においても、励みとなりました。ご紹介いただいた先生方のご期待に添えるよう努力してまいります。☆☆☆
地域医療連携室長 外山 卓二

登録医リーフレットの作成について（お願い）

“登録医リーフレット”は、当センターの外来待合ホールに設置されております。所在地を各市ごとに分け、町名をあいうえお順に掲示してあり、患者様が自由にお持ちになっていただけます。また、当センターからの逆紹介時や、かかりつけ医を探している患者様の相談時には、たいへん有効に活用しております。たいへん好評をいただいておりますリーフレットを作成してみませんか？今回は、作成についてご案内いたします。



群馬県立心臓血管センター
 院長 大島 茂
 所在地: 前橋市亀泉町甲3-12
 電話: 027-269-7455

～院長挨拶～
 患者の皆様には温かい態度で接し、患者様一人一人の権利と安全を確保し、最良の医療を提供する病院を目指します。

～当院紹介～
 虚血性心疾患・不整脈・心不全・心臓リハビリテーションなど心疾患では、24時間救急医療体制を敷いており、緊急症例に常時高度専門医療を提供する体制を整えています。また、生活習慣病に対しては予防も含めて積極的に取り組む体制が整備されています。

◇診療科目◇
 ・循環器内科 ・心臓血管外科
 ・外科 ・放射線科
 ・整形外科

☆ご紹介状・保険証
 (受診されたことのある方は、心臓血管センターの診察券) をお持ちになり、受付窓口③にお越し下さい。

ご予約のない場合の受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 (8:30～11:00)	○	○	○	○	○	休	休

※心臓血管外科外来は、水曜日午後に行っております。
 ※ご予約をいただいている患者さまは、予約時間までにご来院し、受付をしてください。

平成20年6月22日より
 上武道路 (R177) 開通。
 上武道路をご利用の方は、
 ③ 方角へ降りて
 左折して下さい。
 (前橋 前橋大橋交差点)

上毛電鉄…心臓血管センター駅より徒歩3分
 西武バス…タクシー約20分

- ①院長挨拶
診療にあたっての理念や先生のプロフィールや一言をお願いします
- ②当院紹介
診療内容や設備、また特にご専門とされている分野などをご紹介ください
- ③診療科、専門外来、往診、予防接種など
- ④診療時間、休診日
以上4点を書いていただきます。(専用原稿用紙があります)
- ⑤地図
診察券などに記載があれば、添付してください。ない場合は、作成いたします。
- ⑥写真
院長先生、院内の様子(待合室、受付など)、建物外観などを掲載します。適切な写真がない場合は、撮影にお伺いします。(院長先生写真のご掲載はご意向で)
 ☆原稿、写真、地図が揃いましたら、作成(レイアウト)はこちらでいたします。お任せください！詳しくは、地域医療連携室までご連絡ください。ご協力をお待ち申し上げます。

『第9回群馬県立心臓血管センター症例検討会【学術講演会】』のご報告

年2回で開催を予定している学術講演会が平成21年9月25日(金)に当センターにて行われました。今回は、「冠動脈疾患における積極的脂質低下療法の意義」を演題に、スタチンの臨床研究において第一人者である順天堂大学医学部 循環器内科 教授の代田浩之先生をお招きし、ご講演いただきました。講演要旨は「スタチンはLDL-Cを低下させ、プラークを退縮させる。同時にプラークの質を改善し安定させる。そして、予後を改善することも大規模臨床試験で確認されている。我々は日本人においてもスタチンはプラークを退縮させ、安定化させること証明した。その後の検討ではプラーク退縮群では予後が良いということも証明した。スタチンには炎症を抑える作用もあり、心血管イベントの抑制にはスタチンを用いた積極的な脂質低下療法が必須である。特に急性冠症候群や糖尿病患者では、LDL-C 70 mg/dl を目標に設定し、より積極的に管理すべきと考える。」といった内容でした。



1時間にわたる講演後の質疑応答では、ご出席いただいた先生方より、多くの質問をいただきました。お忙しい中、お集まりいただきました先生方、ありがとうございました。



地域の医療機関とともに県民の命を守る
群馬県立心臓血管センター

地域医療連携室たより

第14号 平成21年10月発行

～当センターは“地域医療支援病院”です～



病院の理念

～患者本位の医療(温かくて風格のある病院)～
 患者の皆様には温かい態度で接し、患者様一人一人の権利と安全を確保し、最良の医療を提供する病院を目指します。

目次

- 外来担当医一覧表のご案内
- 「薬薬連携 ～地域医療連携における薬剤師の関わり～」
 薬剤部長 坂下 可奈子
- 新入職医師ご紹介
- 「患者本位」の「病診連携」
 岡本医院(伊勢崎市) 院長 岡本 栄一先生
- 登録医リーフレットの作成について(お願い)
- 「第9回群馬県立心臓血管センター症例検討会【学術講演会】」のご報告



平成21年10月現在の外来担当医師を別紙外来担当医一覧表にてご案内いたします。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先
 群馬県立心臓血管センター 担当 地域医療連携室
 〒371-0004 群馬県前橋市亀泉町甲3-12
 電話 027-269-7455 (内線2040・2041)
 FAX 027-269-7286
 ホームページ <http://www.cvc.pref.gunma.jp/index.htm>